

令和元年度北海道自治体病院協議会栄養部会 情報交換会報告書

日 時：令和元年 6 月 15 日（土）12:45～13:30

場 所：かでの 2.7 6 階 和室研修室「樹」

参加者：28 名（幹事 7 名含む）

タイムスケジュール：

- 12:45-12:48 説明（3 分）
- 12:48-13:15 実施（22 分）
- 13:15-13:27 発表（12 分）
- 13:27-13:30 まとめ（3 分）

進め方：

- ① 司会 1 名、記録 1 名と発表 1 名を決める
- ② テーマに沿って意見交換を実施
- ③ 意見交換内容を簡潔に発表

全体の司会：1 名（幹事） 各 G の司会：6 名（幹事）

開催に向けて（準備）：

- ・希望のあったテーマに応じて、管理栄養士の経験年数別にグループ分けしておく
- ・自己紹介はできるだけ事前に済ませておく
- ・司会は日々の業務をさらに推進するため、前向きな意見を交換となるよう配慮する
- ・開始前に写真撮影を了承してもらい、全体のまとめについては後日 HP 等で公開することを伝える
- ・各グループの用紙は、終了時に回収する
- ・次回の情報交換会の日程（10/19）を伝える

結果：

区 分	グループ名	テーマ（今後の取り組みの参考となる内容を抜粋）
1)男性栄養士 5 名	チームニュートリメン	≪男性栄養士の交流≫ ・妊婦や若い女性への対応が困難 ・性別を問わず悩みを共有 ≪栄養指導件数や提供食数の効率的な集計方法≫ ・表計算ソフトを活用 ・区分毎（入院・外来・集団・疾患）に入力し、月間および年間と連動して集計
2)委託管理 4 名	JYHK☆委託を変えて!!	≪給食委託関係≫ ・食事の質を担保した委託契約には、事務側の理解と協力が必須であり、プロポーザル方式での契約がよい
3)がん・NST 4 名	女子グループ	≪がん患者の栄養管理（終末期の食事・輸液の調整）≫ ・栄養指導はがん専任栄養士が担当 ・終末期は PN 投与のみ ・誤嚥性肺炎リスクが高いため OR 不可ケース多い（セレクト食） ≪認知症患者の栄養確保（拒食・飲み込まない）対応や工夫≫ ・フレイル患者は、ハーフ食+栄養補助食品 ・好物を家族に持参してもらい食べる意欲向上
4)地域連携 4 名	地域連携	≪入退院支援≫ ・大規模病院では体制が整備 ・地方病院では十分な対応が不可 （いずれにおいても栄養指導業務優先） ≪栄養指導≫ ・栄養指導料の増額により、指導件数増加へ取り組む
5)給食管理 5 名	嚥下食促進隊	≪嚥下食の栄養指導≫ ・ST や嚥下チームとの情報共有 ・高齢者に使いやすいものを選択 ・退院後の安全性の担保のため市販品を活用 ≪調理員とのコミュニケーション・衛生教育≫ ・回覧し記録を保存 ・ミーティングの実施 ・勉強会の開催（栄養士から調理師・調理員へ 1 回/月）
6)栄養指導 5 名	栄養指導がんばり隊	≪塩分制限の献立≫ ・薄味でも美味しく食べられる調理の工夫（調理師へ相談） ・和食に偏らず洋食の組み合わせや調味料の工夫 ≪栄養指導を増やすための工夫≫ ・栄養士から指導オーダー前に医師から許可をとる（システム構築） ≪TV 等で取り上げられている食事を実践している患者への指導≫ ・患者の話を否定せず、適量や医師への相談などを確認

考察と今後の取り組み：

- ・1グループ5名以下にしたため、全員が話しやすく活発な意見交換ができた。
- ・事前に話し合いたいテーマを聞き取ったため、グループ分けがしやすく、意見交換も積極的であった。
- ・全体の司会とグループの司会を幹事にしたため、円滑に進めることができた。
- ・グループ名や記録、発表など参加者が主体的に参加する意識がみられてよかった。
- ・発表を2分に設定したことで、話した内容を簡潔にまとめる練習にもなった。
- ・和室での開催はリラックスした雰囲気はよかったが、足が疲れるとの意見もあり、次回から椅子席の会議室とする。
- ・話し合いの時間が22分では短いとの意見があったため、時間は30分で予定する。
- ・今回は、参加者からテーマを聞き取ったが、今後は事前にテーマを2〜3個決めておき、その中からグループ毎に選んで話してはどうか。この場合は、経験年齢別や施設規模別にグループ分けしてもよいのではないか。
- ・経験年数よりも病院の規模が近くないと、働く環境や取り組んでいる内容に違いがあり、深いディスカッションが難しい（参加者からの意見）。
- ・今後は今回のような情報交換会だけではなく、活発な学会発表や論文の取り組みを推進するために、既に学会で発表した内容や抄読会などの情報交換会も検討する。

開催状況：



